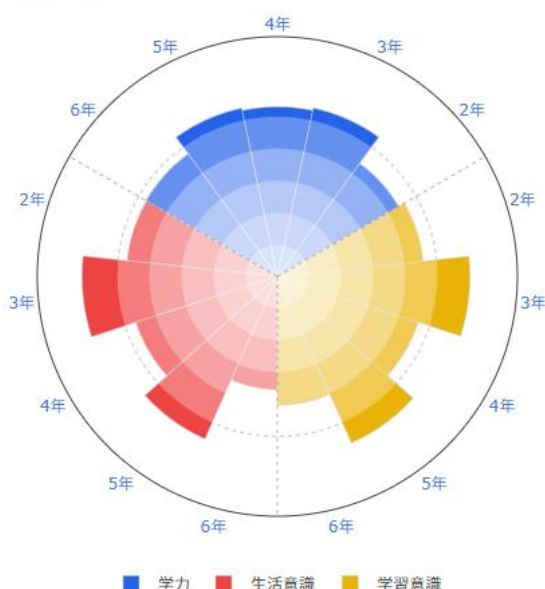


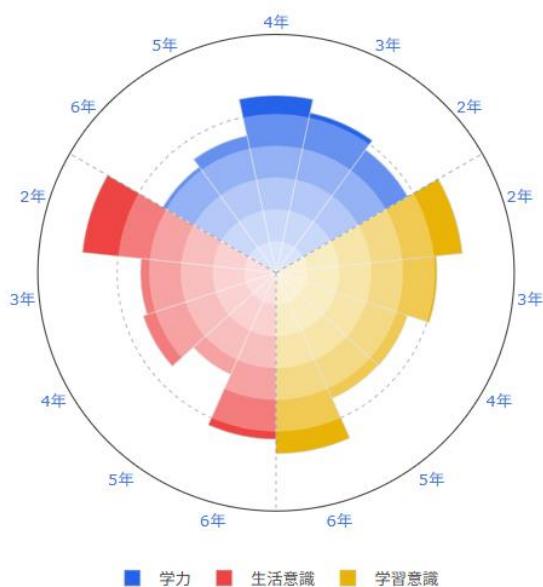
1 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

- 学力については、学年によって結果に違いが見られます。
- ・学力が安定して高い学年や、前年度から伸びが見られる学年があります。
- ・課題が見られる学年もありますが、全体としては昨年度の学力状況をおおむね維持していることが分かります。
- 各学年の経年比較では、学力の大きな変化は見られません。
- ・これまで継続してきた、一人ひとりの成長に寄り添った学習支援の成果が表れていると考えられます。
- ・一方で、さらなる学力向上を目指し、授業改善や「学び方の改善」を一層進めていく必要があります。
- 学習意識や生活意識と学力との関連については、必ずしも一致した結果とはなっていません。
- ・学習意欲や生活経験を学びに生かし、学力向上につなげていくことが課題として考えられます。

令和8年度



令和7年度



2 実態把握からの取組

- 学年の実態や児童のよさを生かした授業改善や「学び方の改善」を進め、一人ひとりの学力向上につなげていきます。
- 児童の高い学習意欲を生かし、主体的に学ぶ楽しさを感じられる学習活動を充実させることで、学力向上につなげていきます。
- 生活経験や身近な課題と学習内容を関連付けることで学ぶ必要感や目的意識を高め、学力向上をめざします。
- 学校全体で「思いや考えを伝え合う力」の育成を目指した研究に取り組み、知識や技能を活用しながら、人とのかかわり合って学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを進めていきます。
- どの教科の学習にも基盤となる言語能力を高めるため、本や新聞などの活字に触れる機会を充実させ、正確に読み取り、考える力を育てていきます。
- 国語科をはじめとする様々な学習場面において、自分の考えや気持ちを話したり書いたりする機会を増やし、表現力の向上を図ります。
- 算数科では、基礎的・基本的な計算技能の定着を図るとともに、立式の根拠や考え方を説明する活動を充実させ、「数学的に考える力」を育成していきます。
- 学力や学習状況には個人差があるため、ICTを効果的に活用した個別最適な学びを進めるとともに、課題が見られる内容については繰り返し指導を行い、分かりやすく楽しい学習づくりを進めていきます。